

令和4年度 村長と語り合うタウンミーティング（村松地区）実施報告書

1、開催概要

日時：第1回 令和4年12月3日（土）14：00～16：00

第2回 令和4年12月17日（土）14：00～16：00

会場：村松コミュニティセンター会議室

参加者：第1回 5名（1名欠席），第2回 4名（2名欠席）

ファシリテーター：伊藤 史紀氏（株式会社 C o - L a b）

2、第1回議事概要（◇＝参加者発言，◆＝村長発言）

村長から話題提供

村長からの話を受けて、思ったこと・感じたこと

◇原子力は、安全であってほしい。望むのはそれだけ。福島のようになったら避難はどうなるのか。

◆広域避難計画の案を作っている。村はPAZ（東海第二発電所から約5キロメートル圏）にあたり、村民は放射性物質が外に飛散する前に村の外に避難し、周辺市は屋内に退避する計画を作っている。村民は自家用車での避難が原則で、取手市、守谷市、つくばみらい市に避難してもらう。車で避難できない人はコミセンに集まり、バスで移動する。子どもを迎えに行けない時は、学校でバスに乗せて避難させる。村民に早く周知し、どうなった時に自分がどうなるのか、分かりやすく伝えたいと思っている。まず、中身を早く説明できるようにしたい。

◇中央排水路の道が狭く、車がすれ違えない。広げてほしい。避難道路は選択肢があった方がいい。

◆中央排水路の道路は拡張できるとよいが、今の水路に蓋をして暗渠にする話になるが、今その話はない。阿漕ヶ浦公園を再整備中だが、入口付近で道路と駐車場が混在し危ない。これを是正するため、駐車場と道路を造る予定だ。いずれにせよ、宿区と県道をつなぐ道路は1つ必要と思う。

◇詩人の山村暮鳥の詩碑が村の虚空蔵尊に建ててから再来年で50年になる。群馬県出身で水戸に墓があり、大洗にも詩碑がある。群馬、水戸、大洗で、山村暮鳥の歌碑建立50周年事業として文化観光イベントを開催したらよいのではないかな。全国から暮鳥ファンが来るのではないかな。

◆山村暮鳥の話は聞いたことはある。文化芸術関係の方で興味のある方がいて、盛り上がってくれば、可能性はある。学芸員と話をしてもらい、話を探ってもらえればと思う。

◇不満は特にない。今を大事にしたいと思っている。自然災害があると家族が離れ離れになる。家族同士で連絡を取り合えれば安心する。コミセンへ行くにも、高齢者は歩くのが不安だ。

◆災害が起きたとき、家族が近くにいない単身世帯の高齢者は地域で支えていく必要があるが、今後対象者が増えると、支え手を確保できるかという問題がある。見守り、防犯、防災など、困ったときに助け合える自治会なども、地域の安全安心の基盤として必要だ。足の確保という点では、今はデマンドタクシーしかない。新たな公共手段を考えなくてはならないと思っている。住民同士で1台の車を共有し、地域の人が高齢者を運んでいる村外の地域もある。

◇宿区は、昔は一番栄えたが、今は一番将来を危ぶまれる地域。若い人が住んでいない。照沼小学校も児童数が100人を割ってきた。原子力関係の人が家族で住むようになることを希望する。

◆原子力研究開発機構の社宅は、この地域に箕輪団地と太田団地があるが、太田団地が無くなった。

お店がなく、住む場所として選ばれにくくなっている。国道245号を拡幅しても通過するだけで、面的恩恵がないと地域が疲弊してしまう。

◇農業の跡取りがない。農地は一区画が広がると、大型機械で効率的に耕作できる。収入を上げられる農家が増えれば跡取りができる。私は機械化を進めて楽をしている。ぜひ、村が先頭に立ってそういった農業ができるようにしてほしい。

◆農業振興は、基盤整備をもう一回やらないといけない。地権者、借りている人を含めて、耕作者がどこまでやるのか、米を作り続けられるかを確認して、人手がかからないよう機械化、大規模化をするため、基盤整備がいる。周辺の道路など、全体を考える必要もあり、関係者の合意もいるが、ある程度決めなくてはならないと思っている。

◇村の行政サービスの評判がよいのは、原子力関連事業者からの税収によるところがあると思う。共存共栄しないと、今の東海村はないと思う。

◆原子力発電の再稼働は、いずれ判断する時期が来る。

村長に質問したいこと、対話したいこと

◇小さい頃には、村松海岸の入り口に出店があり、お茶菓子を食べられる場所があったが、今はない。人もいなくなり縮小している。観光用の建物などできないか。

◆阿漕ヶ浦公園入口のT字路の海側道路を造れないかと話をしている。J-PARCの進入路であると同時に、八間道路に人が行けるように道路を造ろうと検討している。働く人も、散策する人も、歩いて回れる道路を考えている。国道245号沿いに道の駅が欲しいとか、人が立ち寄れる施設が欲しいとの話も聞いているが、商売としてやる人がいればよいが、誰が運営するのかなどを整理する必要がある。

◇幼稚園の頃に外国人研究者の子と友達になり、海外に興味を持った。仕事の関係で移住、出張してきた研究者や外国人が、村民と交流できる形で村に居住することで、予測できない展開が生まれるかもしれない。

◆J-PARCにいる外国人研究者は、近くの宿泊施設に泊まり自転車移動のため、一般の村民と出会うことは少ない。短期滞在できる戸建て住宅があれば、地元のスーパーに出かけることもあり得る。研究者も増えているので、J-PARCからも日常の中でサポートしてほしいという話が出れば、受け皿として地域で何ができるか考えてみる時期かもしれない。

◇日本全体で人口が減少する中、村の人口が減らないようにするにはどうしたらよいか。

◆子どもの数は減っている。人口のV字回復は難しい。女性も男性も働きながら子育てをする。どこまでサポートできるか。ある人は、子育てを税金でやるのは無理で、「こども保険」のようにお金を納めて政策をやらないといけないと言っていた。そういった制度は国でしか作れない。高齢者からは文句を言われてしまうが、当面は働きながらの子育てを支援したい。

◇人口減は止められないから、それを受け入れ、住んでいる方への村の既存のサービスをより充実させれば、転入者が増えるのではないか。

◇阿漕ヶ浦周辺の開発について話したい。劇場などの芸術施設を造るとよいのではないか。小さい施設でよいから劇場を造り、公園、ホッケー場、野球場を含めて複合施設として人を集め、その中で道路ができれば虚空蔵尊にも人が来る。津波の避難先の意味も含めて、劇場を高いところに造ったらよい。

◆阿漕ヶ浦周辺は、ホッケー場、駐車場を整備し、NPOの活動も始まったので大神宮や虚空蔵尊とも調整して有効活用したい。さらに集客できる施設があれば、面として活性化できる。村が何かを造るのではなく、公園を民間に貸して民間で建物を造ってもらう可能性もある。水害、津波になると、避難所としては照沼小学校、阿漕ヶ浦公園など、宿区より高い所という気持ちは分かる。

3, 第2回議事概要 (◇=参加者発言, ◆=村長発言)

村長に質問したいこと, 対話したいこと

◆原子力のお話をされない方は、無関心というより日常生活への関心が高い。交通の問題などが先に来るが、原子力の問題もどこかで考えなくてはならないと思い、今回の機会をつくった。

◇原発は、日本の電気市場を支えていた。原子力関係者が、胸を張れるようにしたい。原発が悪だとすると、廃炉にするしかない。私は、原発はない方がよいと思うが、サステイナブルや脱炭素を考えれば、原発は必要だと思う。原発があるから、避難しなくてはならないが、原発があっても避難の必要がない解決案が、原発の新設だ。暴走しない原発を今開発しているから、新設の方向に向かうのも一つと考えている。将来性があるものなら推進すべきだ。私はエンジニアなので、原子力の技術はすごいものがあると知っている。原発の危ない部分を除ければ、将来への見通しが立つと思う。もっとメリット・デメリットをアピールしてほしい。そうすれば、原発そのものを個人で考えることができ、原子力関係の仕事をしている人が自信を持てるようになると思う。

◇原発の再稼働について。村の避難道路は、1～2車線であり、渋滞で動かなくなる。3車線4車線の広い道路を考えても良い。また、移動できない時のため、1週間くらい入れるような核シェルターを村で造るべきだと思う。カーボンニュートラルにより、ガソリン車の新車販売が終わるとすると、電気自動車による電気使用量が増える。太陽光発電は供給が不安定であり、安定供給するなら原子力しかないと思う。昔のように薪で風呂を沸かせばよいが、豊かになった今では無理だろう。

◆原発の再稼働はまだ判断できていない。安全対策として、事業者が安全性向上のため防潮堤を造っている。2024年9月までかかる。もう一つの対策は防災対策になるが、リスクゼロはない。いざという時のために、避難計画を作る。国の指針上も作らなくてはならない。計画通り避難できるかが皆さんの関心事だと思う。訓練し、検証しているが、村単独で検証できることは限られる。病院などは、陽圧化装置を造り外気が入らない対策をしており、ある程度滞在できる。役場や拠点にも陽圧化装置があり、一時的に利用できる。バスについては、一般の方で自家用車が用意できない人を推計し、県に広域での配車調整をしてもらいたいと考えている。メリット、デメリットの話があったが、村の意思の入る情報提供の仕方だと揉め可能性があるため、事業者の工事の事実だけを伝えることになる。正しい情報の伝え方は難しい。

◇避難後について。福島の実状をみると、除染したから帰れますと言っているが、万が一事故が起きて、福島のようになったときどうするのか。避難後、どこで生計を立てるのか。次の世代を考えると、逃げて別のところで暮らすことも選択肢として考えなくてはいけないと思う。共存すると決めて生きてきたなら、それは我々の責任であると思う。

◆双葉町では町民の帰還に向けて、今、まちづくりをしている。住民がなかなか戻らないのは町長も分かっているが、まちをなくすわけにはいかないとの思いがあり、双葉駅前に新庁舎をつくった。自治体として、「人口が10分の1になっても、町民の中に戻りたい人がいれば、その気持ちには

答えてあげたい。最終的には一人ひとりの町民の判断だが、戻りたい人がいる以上は、やらなくてはならない」と決断して、今に至っていると思う。

◇中央排水路の拡幅は細浦のところの話。駅前の開発がだいぶ進み、田んぼが年に数回水没するようになった。原因は、上側の開発により極端に雨水が流れ、田んぼが下がるからだ。早めに中央排水路を整備しないとイケない。村は予算がないというが、整備計画を立ててほしい。

◇中央排水路を暗渠にして道路を広げれば、農業にも避難道路にも使えて一石二鳥だ。

◆水没は、中央地区の調整池を整備すれば、一気に流れなくなる。工事が終わるのを待ってほしい。ただ、ここには近隣自治体の水も流れ込んでいるので、調整池整備後も影響を見ていきたい。宿から駅に抜けるには、一番よいのは中央排水路の拡幅だと思うが、技術的な課題もあるし、4車線拡幅後の国道245号と村道との接続をどうするかも課題になる。あらかじめ国と協議していれば可能性があるが、後からだとなかなか難しい。

◇農業振興では、認定農業者、農地を集めるということになっているが、私の年下がない。私は米を作っているが、水田関係はあと10年もすると、条件の悪い田んぼは作らなくなると懸念している。それを防ぐには、農地の区画整理をもう一回して、大区画にしないと作れない。区画が大きくなれば大型機械にしても採算がとれる。10年、20年先を見て、今のうちから整備できないか。

◇高齢化して、できればやりたくないという農家が私の周りに多い。貸していた土地が体調悪化を理由に返ってくる。新たに別の人をお願いするが、その人もある年齢になるとできなくなり、振り出しに戻る。個人ではなく、農業法人を作り、そういうところに集約して貸した方が、農地の有効活用ができると思う。跡継ぎを集め、やめる人がいても引き継げるような、高齢化対策ができればいい。個人が高額な機械を補助金で買くと、後でやめるにやめられない。私も勤めながら農業をしているが、大きいところに全部預けてしまいたい。個人より、法人の方が預けやすいと思う。集約化する方法と継続性のある在り方の検討を村でも進めてほしい。

◆畑はサツマイモブームで作る人もいるが、米は作る人がいない。次の世代の担い手が見つければ、区画整理をやった方がよいが、区画整理をやってから見つけるのではだめだと思う。どうやって次の担い手を採るのが大事で、その見通しがつけば思い切った基盤整備はやるべきである。農事組合法人であれば、一人に依存するよりは永続的になるが、自分たちのやり方があるようで、作りづらい農地は返しているとの話もある。個人の若い人に長くやってもらうか、法人としてやってもらうか、そういう担い手が見つかった時に、基盤整備を一緒にやる。そうしないと、米づくりは残らない。担い手の話は、村で検討しているが、答えは見つかっていない。継続的にやれるところに補助をして、やってもらうのがよいと思う。

◇高齢者のインフラについて。この地区は高齢化しており、免許を返納すると、買い物に行くのも大変だ。今夏、ごみを出しに来て体調を崩し、しゃがみこんでいた高齢者がいた。デマンドタクシーや移動スーパーなど、総合的に考え、この地区の中で高齢者の生活が完結できるよう、村で補助してもらいたい。体が動きにくくなった高齢者でも、一人で暮らせる村をつくってほしい。

◆補助金を出すとしても、採算が取れるのか。移動スーパーやコンビニに近い形など、どの程度の店かにもよる。直接、特定のお店に補助金を出すのは、難しい政策判断になる。行政に頼らず採算が取れる規模、中身だといいい。固定なのか、移動なのか、いろんな手法を考える必要があると思う。

◇採算が取れず地域の店は閉めてしまった。行政にもメリットはあると思う。維持費だけ村で補助

すればできると思う。売れば利益が出る。今も独自にやっているところはある。デマンドタクシーも年寄と病人に限定するとか、路線バスもマイクロバスにしてはどうか。小さければ病院の敷地内にも行けるし、腰の曲がった高齢者もいるから、今まで苦労してきた人にそれくらいのことをしてあげてもいいのではないか。

◆バスの小型化も事業者と話をしている。路線を維持するために、バス会社に補助金を出しているが、デマンドタクシーよりバス補助金の額は少ない。事業者も小型化したほうが維持費は安くなるが、そのための初期投資が大きい。一人当たりの利用者コストは大型バスの方がデマンドタクシーよりかなり安い。路線の変更なども、村の地域公共交通会議で、利用者を含めた関係者を入れて検討している。

◇自治会加入者の減少について。私の地区は田舎だから自治会にはほとんど入っている。ただ、自治会のメリットを付けないと、あと10年、20年後に壊滅すると思う。村として、中長期的に自治会をどうしようと考えているのか。

◆単位自治会は残ってほしい。公助だけでは多分支えられない。ご近所で支えられればよいが、向こう三軒両隣が成り立つかというとなかなか難しいので、互助共助の際の自治会の役割は大きい。民生委員とか、地区社協のふれあい協力員とか、誰か支え手を作っておかないと、埋もれてしまう人がいる。地域ごとにある程度は支えてもらわないと、役場だけでは1万人近い高齢者をマンパワー的にもフォローできない。近隣が一度に被災する地震などの時が怖い。防災は、全ての人にとって自分ごととして共通課題になる。自主防災組織もあるが、組織が煩雑なら1つにすればよい。防災訓練をして、防災の意識付けを自治会や常会の中で行い、入っている意義を見つけだしてもらえればよい。防災のところだけは、若い人にも伝えて、自治会に入る意義を分かってもらえるようにしていきたい。

◇住みよい街には、ご近所の見守りが大切だと思う。一人で解決できない問題でも、ご近所の人、班長や自治会長のほか、皆さん一体となって解決した。公助に頼るのもあるが、住みよいまちには共助も大事だ。同じ地域に住んでいる人が助け合えれば、過ごしやすい村になると思う。

◇どうやってプライベートの関係をつくるか。連絡しあう組織としての自治会があればよいと思う。大事なのは組織ではなく、人と人の付き合いではないか。

4、アンケート結果（抜粋）

① タウンミーティングに参加して、満足度はいかがでしたか。

5（満足）	4（やや満足）	3（ふつう）	2（やや不満）	1（不満）
1名	1名	3名	0名	0名

② タウンミーティングに参加した前後で、あなたの行政や地域への関心、参加意欲は変化がありましたか。

5（高くなった）	4（やや高くなった）	3（変わらない）	2（やや低くなった）	1（低くなった）
1名	1名	3名	0名	0名

（自由記述欄）

・村長より直接話が聞けてよかった。